



京都市立芸術大学音楽学部同窓会

真声会

会報 第58号

2014年7月7日発行



CHANGE は CHANCE 社会変化と今後の行動

真声会会長 大村 益雄 (1期・作曲)

来年は、「真声会」設立60周年です。次の10年へ向けて、社会の変化に適応した活動を進めるべき時期でもあります。62年前(1952年)に京都市立音楽短期大学が開設され、その2年後に最初の卒業生を輩出。その翌年の1955年に、同窓会は「真声会」と名づけて音楽活動を始めました。

その当時のことを、私は第1期の卒業生ですから良く覚えています。戦中、戦後の精神文化欠乏の時代でした。小学6年の時にアメリカによる日本への空爆があり、現在の芸大・沓掛キャンパスより更に西方面の亀岡に近いところで、私と友人が、米国戦闘機グラマンから狙われて、戦争映画のシーンのように機銃掃射を受けたことがあります。幸い命拾いをして、今があるのですが、この忘れ難い戦争体験を通して、自らを切り拓く力を得たと思います。

終戦後、文化政策の一環として音楽短期大学が京都市に設立され、2年後には4年制に昇格させるとの風評があり、私は堀川高校から直接、この新設の大学に入学しました。前評判が高かったため、当時の入学生の中には、京都大学、立命館大学、同志社大学をすでに卒業した方、堀川音楽コースの専攻科を修了した方が在籍し、同じ学年であっても年齢差は5-6歳ありました。すぐには4年制大学にならなかったのですが、私は卒業後、京都市立桃山中学校の音楽科教諭となり、3年間勤めて、その後、再度、京都大学に1年生から入学し、哲学科で音楽美学を専攻しました。世情も安定してきて、鈴木メソッドなど、音楽教育拡大の時期であり、私はその間、子どもの音楽教室で早期音感教育に携わるなどして、音楽の仕事をしながら、京都大

学を卒業し、当時の松下電器の無線研究所にて、電子楽器の研究開発、コンピュータ技術を使った音楽表現の仕事に約20年間携わりました。その頃の日本の音楽大学では、保守的な風土が強く、先進的なテクノロジーと結びつけた音楽制作を受け入れる体質はほとんどなかったので、私は、自分で音楽研究所を立ち上げ、電子楽器のローランドに仕事の間を移し、その後の約20年間、世界の先進国を巡って、IT (Information Technology) 技術を活用した音楽教育の普及のため、欧米の音楽大学と協力して音楽家の活動の場を広げる仕事をしました。ようやく日本でも放送局を中心に、コンピュータ技術を活用した音楽制作が普及し、またデジタル技術による音楽録音・再生手法も格段の進歩を遂げました。この面では、日本の電子楽器技術が、世界をリードしていたのだと思います。

さまざまな音楽教育に携わり、日本の音楽教育の将来像にも大変興味を持っていたので、海外の多くの音楽家、教育家から、民族固有の音楽、社会での音楽家の活動の仕方など、教育の原点ともいえる姿を直接、学ぶことができました。また、同時に、それぞれの民族、文化、生活習慣など、海外の文化教養の深さ、日本文化の良さも、それなりのレベルで体得することができたと思います。これらのことが昂じて、私のライフワークとして、民族の違いによる、原始文明の奥深さを更に見極めたくなり、その後の約10年間は、世界の秘境と言われる未開地域をほぼ隈なく巡って、裸の民族、土着民族、原住民の村々を数多く訪問し、大阪で写真展と講演会も行いましたが、民族文化の基本的な伝承・保存状態、原始社会の統治の在り方、など

をつぶさに見て回ることができ、人生にとっての音楽の大切さを自然に感じ取ることができるようになりました。近年、世界を見回したとき、民族紛争のしがらみは、ますます混迷の度を深めていると思います。しかし音楽は、感性の表出であり、心の表現です。音楽家も、これらの民族問題に深い関心を寄せ、ささやかながらも、平和への道のりに寄与して行きたいものだと思っています。民族問題を通して、一つ言えることは、価値ある役割を果たしている民族のリーダーたちは、常に変貌する世の中であって、精神文明の面で、心ときめきを持って、周りの人々に感動を与えているということです。決して力づくで、その民族を最後まで守り通せるものではないということです。

日本におけるクラシック音楽は、戦後、芸術文化復興の波に乗って、ピアノ・レッスン、バイオリン・レッスンを中心に、大いに普及しました。しかし、それを支える聴衆の育成を怠ってきたため、やがて反省期、停滞期に入り、音楽家の仕事は、昔ほど多くありません。でも、今は、新しい普及促進運動に取り組んでいる意欲的な音楽家、音楽マネージャーたちにより、

少しずつではありますが、聴衆が増えてきて、再び成長期へと向かっています。兵庫県立芸術文化センターの聴衆は、催し物によってはチケット入手が困難であるほど、ずいぶん増えてきました。京都でも、京響友の会の会員が大きく増えるなどの賑わいを見せています。これらの社会的変化は、まだまだ、真の聴衆に支えられたものとはいえないところがありますが、よい傾向だと思っています。これらの変化を意識して、人々に役立つ音楽活動を行うことが大切なのです。

京都芸大の学舎が、5年後から10年後に京都駅東側に移転します。今の場所よりも交通に便利なので社会との接触も多くなり、組織の充実と共に、日本に於いて、世界に於いて、間違いなく京芸の社会的地位を高めることができるようになるでしょう。

「真声会」が、60周年を契機に、その意識を、母校芸大の発展と、広く社会への貢献へと向けるならば、必ず「真声会会員」全員に役立つ組織へと成長していくことができると思います。



真声会からのお知らせ



**ホームページをリニューアルしました！
後援申請書のダウンロード、住所変更の
WEB での受付が出来ます。**

<http://www.shinseikai-kcua.net/>

以前より見やすく、充実した内容のホームページができました。また、後援申請書のダウンロードや、住所変更の受付もしております。

これまで通り、教員・演奏者等の募集情報や、後援演奏会情報も随時更新しております。どんどんアクセスして下さい。

**同窓会事務局は年中無休で
稼働しています！**

**電話：080-6185-4494
メール：shinsei@kcua.ac.jp**

同窓会事務局は現在、真声会役員が電話対応や、メールの対応を行っております。お電話が繋がらなかった場合は、留守録を残しておいて頂きましたら、後ほどご連絡を差し上げます。お名前とご連絡先を残して頂きます様、よろしくお願い致します。なお、メールは、随時受け付けております。

**同窓会業務は、同窓会室から同窓会事務局へと担当が変わりました。
より会員の皆様が情報にアクセスしやすいよう、動いてまいります。
真声会に対するご意見、ご要望があれば、事務局までどうぞ！**

ご挨拶と抱負

京都市立芸術大学 音楽学部長 大嶋 義実 (26 期・フルート)

「ひえ〜!」「きゃ〜!」「ぎょえ〜!」・・舞い散る桜の花びらが疎水の水面を埋めつくしてまだ間もないころ、同世代の卒業生いく人かと顔を合わせる機会がありました。「オレ、今、学部長やってんねん・・」となにげなくつぶやいたその瞬間、悲鳴があがりました。その場にいた全員です。

それはまるで、聞いてはならぬことを耳にしてしまったかのような、見てはならぬものを目にしてしまったかのような、驚愕と恐怖にみちた叫び声でした。

驚愕は「三連符もロクに読めなかった、主要三和音もよくわかっていなかった、ドイツ語 1 を落としまくっていた、あのオオシマくんが、学部長だなんて・・」という驚きであり、恐怖は「当局はオオシマくんを学部長にすることで、結果的に音楽学部の漸次消滅を謀っているのではないか」という恐れ、のようでした。

でも心配には及びません。いまの音楽学部は、どんな人物が学部長になっても、ちゃんとことが回っていくように制度設計がなされています。そういうシステムを、前学部長の山本先生をはじめとする歴代学部長、および優秀な京都市職員の方々が構築してくださいました。また、10 年後を目途に、学校は京都駅東側へと引っ越す予定です。現在、移転構想が練られている最中ですが、そのなかにはちゃんと音楽学部のスペースも設けられております。どうぞ安心してください。

というわけで、周りの心配をよそに、私自身は数々のチョンボを連発しつつも、多くの方々の温かいフォローに支えられて、極めて楽観的に日々業務をこなしております(「こなしていない!」とのお叱りも時々あります)。

しかし楽観視できないのはこの国を覆う教育へのまなざしです。

実は本年度から管打専攻では、新たな専攻楽器としてサクソフォーンを増やしました。そのため定員 2 名の増員分については、文科省への届出が必要です。昨夏同省の担当部署を訪ね、書類に不備がないか、事前に相談をしてきました。そのおり、対応をいただいた職員の方から「サクソフォーンを受験生をどの程度見込めるのか、エヴィデンス(数値的根拠)を添えてください。また、卒業後に仕事がある、というエヴィデンスも必要です。」といった指摘があり、書類の書き直しを言い渡されました(もちろん書き直したのは事務の方です)。

定員割れをおこす大学もあるなか、定員増を行うからには受験生のニーズが前提だという、文科省の言い分は尤もです。勉学を終えた若者に社会での活躍の場があるのか、学校が事前にチェックすべき、という指導にも肯けないわけではありません。

とはいえ彼らの言い分は「受験生から必要とされない分野など、研究に値しない」ということであり、「いかなる専攻であれ、仕事がないなら、高等教育は要らない」ということです。個人的には仕事はあるものではなく、つくるものだと思いますが・・。

それはともかく、いつのころからか、学校教育の現場では教育サービス産業という言葉が使われ始めました。学生は「お客様」であり、教師や職員は彼らに良質な教育サービスを提供する義務がある・・というものです。今やどここの大学も、学生様にご満足いただけるよう、高級ホテルかと見紛うばかりの施設の充実につとめています。授業も懇切丁寧に学生が分かるまで指導することを求められます。「できないなら田舎に帰れば・・」などと言おうものなら、次の日に田舎に帰されるのは教師のほうです。そして大学に対する顧客満足度は、最終的にどうやら「就職率」で計られるようです。週刊誌等で「就職率大学別ランキング」や「本当に就職に強い学部ベスト 10」、「社長輩出率の高い大学」といった特集が組まれるのもそのためです。

まるで大学は就職予備校であり、仕事に結びつかない研究・教育に存在価値はない・といわんばかりです。ありていにいえば「金にならない勉強などするな」ということです。

その発想の根本にあるのは、教育も他の商取引同様、等価交換であり、投資であるという認識でしょう。であればこそ「顧客(受験生)のニーズにあった科目を提供し、卒業後に仕事があることを保証しなさい」という、先の文科省の話しに繋がります。仕事がないということは、教育投資をしても、利息はもちろん、投



下資本を回収する見込みすらないということです。したがってそうした学部や専攻、科目の設置を認めるわけにはいかない、というロジックです。

音楽家に就職先などなきに等しいことは、誰もが知っています。なのに、昨今、理由をこじつけてでも、音楽を勉強すればいかに就職に有利かと喧伝する学校もあるようです。時流に乗り遅れるわけにはいけないのでしょうか。しかし、これでは自分の首を絞めることになりかねません。既存の価値観に対して「それだけが価値の全てではない!」と声を上げるところにこそ、芸術の存在理由はあるからです。大学という場で芸術や学問をすることの目的はひとつです。それは「真理を探究する」ことです。その真理によって、しばしば、それまでの常識や正義と信じられてきたものが覆されたことは、歴史が証明しています。真理を追い求めるなかから、新しい価値は創造されるのです。就職にしか、つまり経済的価値にしか関心を示さない人間や組織に、そんな革新的な働きができるわけはありません。だって、「金になるかならないか」の枠組みでしか、ものごとを考えられないのですから。それが悪いというわけではありません。そんな考えもあっていい。問題はそのような底の浅い世界観のみで、世のなかが一元的に支配されてしまうことです。しかもその状況を国(文科省)が率先して「是」としています。こうした現状に深い憂いを覚えるのです。

希望はあります。四月の新生オリエンテーションのおり「就職のことを考えて、この学校を志望した人はいますか?」と問いかけたところ、誰も手をあげませんでした。彼らには「音楽を勉強することで、自分にどのような実利がもたらされるか」を計算している風はありません。もちろん、最初から就職を諦めているからかもしれません。だとしても、音楽をすることそのもののなかに、価値とよろこびを見いだそうとしていることだけはたしかです。じつに、音楽を勉強することの価値とよろこびは、音楽を勉強することそのもののうちにあります(ここ重要です)。学生たちは、そのことを長年の音楽的訓練のなかで身体化しているようです。世の大学生が(いや教員も?)ほとんど忘れてしまった、知と身体技法への《内発的な衝動》が彼らには備わっています。それは真理へと踏み出す第一歩です。

その意味で、京芸音楽学部は、大学が大学であり続けるための、日本で最後の砦になるのではないかとさえ思っています。

とはいうものの現実的には、卒業すれば日々の糧を彼らももてなければなりません。ですから常々学生には「音楽なんかで食って行けるはずのないところを、知恵と度胸と愛嬌で生き延びるのがキミらの仕事や」と声をかけるようにしています。そして私にできることがあるとすれば「京都芸大は教育サービスを売場ではない」ことを愚者のごとくに、唱え続けることしかありません。

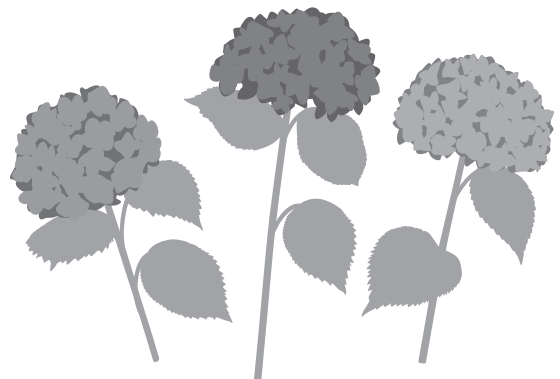
まさかこのような原稿を、音楽の右も左も分からなかった38年前の新生の私が書くことになるうとは・・・、片岡義道先生(私が学生当時の学部長、ドイツ語の先生でした)も天国で(先生はお坊さんでもあったので極楽でしょうか)ビックリ仰天されていることでしょう。あちら側で、この会報を手にとって「真理がどうか、エラそうなことをいう前に、オオシマくんはちゃんとデア・デス・デム・デンを覚えんとイカン・・・」と半ばあきれ顔でニコニコされている先生のご様子が目に浮かびます。

さて、いつもこの会報の発行時期に行われていたオーケストラの定期演奏会は、本年は京都ライオンズクラブ様に全面的な財政支援をいただき「京都ライオンズクラブ創立60周年記念チャリティーコンサート」として、広上淳一先生指揮の下、さる6月29日、京都コンサートホールにおいて行われました。わたしたちの活動を理解し、応援をしようと手を差し伸べてくださる方々が増えてきたことは、なんともありがたいことです。これも、音楽学部が他のことにはわき目もふらず、ひたすら音楽という芸術に真摯に向き合ってきたことの証なのではないでしょうか。

これからも真声会のみなさまに恥ずかしくないよう、京芸音楽学部にしかなできない教育・研究に真正面から取り組んでまいりたいと思います。

さらなるお力添えを切にお願いしつつ、筆を置きたいと思います。

ありがとうございました。



✧ 平成 25 年度、卒業式に参列して ✧

真声会副会長 松本 真理子（15 期・打）

3 月 24 日、平成 25 年度の卒業式に大村会長と共に出席させて頂きました。快晴。

音楽学部の卒業生は 59 名、修士課程修了生は 18 名、博士課程は 2 名でした。美術学部は個性的というか、自由というか... ユニークな衣装の方も多かったのですが、音楽学部は凛とした落ち着いた姿で、特に答辞を読まれた Vn の富永歩さん、立派でした。

市長様と学長先生のメッセージもすばらしく、心に残るキーワードがたくさんありました。「改革と伝統」が京都のすごさ。「そうだ！京都へ行こう！」と世界で言われるように、古典の大切さ、「芸術の力を信じ、世のため、人のためにがんばってほしい」、京芸の成り立ち... 本当にいろいろと学ばせて頂きました。卒業生諸君が、どの様に受け止めてくれたかと案じつつ、愛すべき後輩達の人生の門出を心から祝っておりました。午後よりはホテルでの謝恩懇親パーティーにも参加させて頂き、和やかで心豊かなひとときを過ごさせて頂きました。



♪ 平成 26 年度、入学式に列席して ♡

真声会副会長 大西 多恵（10 期・声楽）

4 月 10 日（水）入学式に来賓として列席致しました。

まず、数名の学生さんが遅れて入ってこられたのに驚き、大学院生である彼らには、もはや入学式に対する緊張感や喜びは少ないのかと、少し残念な気持ちになりました。

来賓紹介では、市長、経営審議会会長、美術学部同窓会長、後援会の代表の方々と続き、美術学部同窓会の上村淳之会長、音楽学部同窓会からは松本真理子副会長と私が紹介され、続いて主催者紹介がありました。

いよいよ、美術学部から順に新生の名前が読み上げられる場面になったのですが、名前に対して返事が少ないため、「本年度はこんなに入学辞退者がいるのか！」と正直愕然として座席に目をやると、そこにはちゃんと新生の姿がありました。続く音楽学部にも程度の差はあれ、声が小さく聞き取れない人がいました。中には身体的な理由で声による返事が出来ない方もいらっしゃるかも知れません。が、なぜ祝福して貰うために出席したはずの入学式で、名前を読み上げて貰ったことにちゃんと返事をしないのか？と腹立たしくなりました。返事は恥ずかしい？面倒？「でもそれだって個性だ！」なんて思っているとしたらそれは大きな間違いです。芸術家の個性とは作品や演奏の中にこそ発揮されるものであり、評価されるのは死んだ後でいいと思っているならともかく、同じ時代に生きる人達から軽蔑されるような態度しかとれないようでは多くの場合やっていけません。返事は呼ばれた相手に対してするものであり、自分にしか聞こえない声では意味がないのです。

それでも学部と大学院入学生の宣誓は、しっかりと芸術に向かう気持ちが若々しく伝わり、救われた気持ちになりました。最後に、市長と学長が、歴史都市、芸術文化都市であるここ京都で、市民からの熱い期待を胸に、人の心にとって大切な芸術と、それを社会の中でどう役立てるかということを常に意識しながら、精進して欲しいと述べられました。新生の皆さんは既に真声会の新しい仲間でもあります。会員の皆様、共に真摯に芸術の道を歩んでいきましょう。なお、本年の音楽学部入学者は、学部 65 名、大学院 19 名でした。

役員会報告

真声会運営委員長 佐々木 研 (10 期・打)

去る 6 月 8 日(日)、2 年に 1 度の「役員会」がザ・パレスサイドホテルで開催されました。理事、支部長、年度委員、本部役員、そして大学の先生 3 名や、学生代表の 7 名も加わって、60 名を越える参加者の大きな会合になりました。

大村会長の開会の挨拶の後、来賓としてご列席された大学の副理事長の廣野貴夫様と大学の先生方を代表して音楽学部長の大嶋義実様にご挨拶いただきました。

議長選出の後、議事に入り、(1) 真声会の将来ビジョンについての活動報告と会則改正の予告、(2) 2013 年度の会計報告と監査報告、(3) 2014 年度の予算案の審議、(4) 大学の移転について、(5) 各支部の活動報告がありました。支部活動については援助金の配分など、いくつかの要望が提案されましたので、会則の改正も含めて今後の課題となります。

最後に年度委員の方や学生代表の方から、この会の感想などを述べていただき、大西副会長の閉会の挨拶で 2 時間余りの会を終えることができました。たいへん意義のある「役員会」であったと思います。

すべての議案が承認されましたので、ご報告致します。



京都市立芸大移転問題について

編集委員長 朴 実 (12 期・作曲)

すでにお知らせしましたように(会報 56 号)、昨年 3 月、京都市立芸大から京都市に対し、JR 京都駅東側の崇仁地域への移転要望書が提出されました。これを受けて京都市は、本年 1 月 6 日、門川市長から、同地域への移転が正式に表明されました。京都市は移転整備についての判断として、(1) 市立芸大の発展に資すると認められること、(2) 京都全体のまちづくりに貢献すると認められること、(3) 崇仁地域の将来ビジョンに合致すること、(4) 移転先の地域の賛同が得られるとともに、現在地の将来に向けた協議を行っていること、(5) 用地確保の見込みが立ったこと、具体的には塩小路高倉から東南方面に位置する区画、約 38,000㎡の土地を選定した。移転整備構想の策定は、今年度中に基本的な移転整備構想を策定し、10 年後移転整備を終了させる予定です。

移転整備における主な視点として(1) 芸術才能・感性を育む関係機関の連携(2) 文化芸術による人の交流、まちの賑わいの創出(3) 京都ならではの産業や文化、他大学との連携強化などにより、文化芸術を核とした京都の人づくり・ものづくり・まちづくりの拠点の役割を担うことを目指す。以上が京都市が京都芸大移転整備に関して発表した論点です。

私たちにとって京芸移転の最大のメリットは、JR 京都駅から徒歩約 10 分(京阪七条駅からも徒歩約 10 分)という非常に交通アクセスに恵まれたところへ移転することです。しかし問題点として、現在の洛西沓掛キャンパスですら手狭であるにもかかわらず、それと同じ規模の用地確保しか見込めていないこと。それに加え、一部建築物の高さ制限を撤廃する方向で検討されていますが、鴨川や東山などの景観から見て、問題が生じる恐れがあります。何より、我々の京都芸大の将来を展望した場合、今回の移転を機に、日本のみならず、世界に向かって大いに発展するチャンスであり、このことを考えるとキャンパスやその関連施設を含めると、現在より 2 倍の広さが必要だと思われます。幸い、崇仁地域の南に隣接する南区東九条には広大な市有地があり、そこへの関連施設建設は可能であり、今後京都市に積極的に働きかけたいと思います。

京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」2014 年度 予算案				
(2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日)				
収入		支出		
内容	内訳金額	合計金額	内容	合計金額
会費			支部援助金	
入会金 (70 名)	1,050,000		大阪支部	239,000
年会費・終身会費	2,500,000	3,550,000	岡山支部	18,000
利息			関東支部	95,000
郵便貯金	500		京都支部	313,000
銀行預金	2,000	2,500	兵庫支部	0
			奈良支部	74,000
			滋賀支部	139,000
			中部支部	131,000
			演奏活動等援助金	1,009,000
			芸大演奏旅行	
			芸大教育活動支援金	100,000
			印刷物発行費	250,000
			名簿 (印刷・封入手数料)	0
			会報 (印刷・封入手数料)	700,000
			その他 (封筒・葉書など)	200,000
			郵送料	900,000
			会報発送費 (特別割引郵便費)	450,000
			会議費	
			役員会開催費	250,000
			定例会議費	80,000
			臨時会議費	30,000
			交通費	50,000
			人件費	410,000
			同窓会室	0
			HP デザイン・管理費	200,000
			事務費	
			電話・通信費	20,000
			郵送料	20,000
			備品購入費	60,000
			消耗品	30,000
			慶弔費	11,500
			手数料	141,500
			郵便局	
			南都銀行	2,000
			京都市芸術文化協会年会費	82,000
			入会金二重払い分払い戻し	10,000
			会費二重引落し分払い戻し	15,000
総計		3,552,500	総計	3,552,500

京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」2013 年度 会計報告				
(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)				
収入		支出		
内容	内訳金額	合計金額	内容	合計金額
会費			支部援助金	
入会金 (70 名)	1,050,000	239,000	大阪支部	239,000
年会費・終身会費	3,650,000	4,700,000	岡山支部	18,000
利息			関東支部	95,000
郵便貯金	427		京都支部	313,000
郵便定期貯金解約	72,995	0	兵庫支部	0
銀行預金	3,482	76,904	奈良支部	74,000
総会パニー費			滋賀支部	139,000
会費収入	54,000	54,000	中部支部	131,000
繰越金			演奏活動等援助金	1,009,000
寄付金特別会計			芸大演奏旅行	
雑収入			コール真声会	100,000
			印刷物発行費	26,000
			名簿 (印刷・封入手数料)	1,717,200
			会報 (印刷・封入手数料)	672,083
			その他 (封筒・葉書など)	218,825
			郵送料	2,608,108
			会報発送費 (特別割引郵便費)	447,520
			名簿発送費	622,184
			会議費	1,069,704
			総会開催費	85,400
			会報部屋代・飲み物代・資料代	79,970
			交通費	51,780
			人件費	217,150
			同窓会室	
			HP 管理費	285,000
			事務費	50,000
			電話・通信費	21,007
			郵送料	50,986
			備品購入費	37,900
			消耗品	26,928
			慶弔費	5,400
			手数料	142,221
			郵便局	
			南都銀行	1,760
			京都市芸術文化協会年会費	83,842
			入会金二重払い分払い戻し	85,602
			会費二重引落し分払い戻し	10,000
			会費二重引落し分払い戻し	0
			今年度支出合計	9,000
			次期繰越金	5,611,785
総計		26,072,616	郵便貯金及び銀行預金	
			現金	20,392,963
			総計	67,868
			総計	26,072,616

2013 年度「真声会」収支決算報告については、以上のとおりです。 2014 年 月 日

会計 佐藤敏子 印

以上の報告に相違ないことを認めます。

会計監査 伊吹元子 印

会計監査 植上由紀子 印



真声会と美術学部同窓会「象の会」との話し合い

真声会編集委員長 朴 実(12期・作曲)

2013年11月27日、「象の会」(美術学部同窓会)と「真声会」は初めて正式な交流会を開催しました。

日 時 2013年11月27日(水)午後6時～8時30分

場 所 「ウイズユー」

出席者(敬称略)

象の会： 上村淳之、阿部 緑、望月重延、小山格平、野崎邦雄、開本恭子、

真声会： 大村益雄、大西多恵子、松本真理子、三井ツヤ子、佐藤敏子、朴実

オブザーバー： 芦田(大学事務局)、写真記録担当者

司 会 象の会 野崎 邦雄、真声会 朴実

内 容 出席者の紹介(自己紹介)、両会長あいさつ、両同窓会の説明、両同窓会合意事項の確認・署名(文書)

司会者が5項目から成る確認事項文書を読みあげ、象の会 上村淳之会長、真声会 大村益雄会長が署名し、出席者全員が確認しました。



次に、確認事項に基づいて2月14日真声会将来ビジョン推進委員会と、象の会事務局との会議で以下の内容について話し合いました。

1. 両同窓会の合同会議について

下記の象の会・真声会 連絡会議 運営要項を決める

2. 会則について

- ・将来的に、共有出来る箇所について
- ・会費の徴収方法について(大学に対してのアプローチ方法)

3. 大学移転に関連する募金活動について

4. 芸祭での模擬店について

5. その他

- ・ホームページの件、
- ・卒業記念品(クリアファイル)を真声会で購入した旨報告。
- ・入学式で、象の会は、「京の美・都の響き」という京芸130年の歴史が紹介されている本を配っている。真声会としても何か考えられないか検討する。
- ・象の会は、卒業時に保護者に対して直接、会費納入のお知らせを送っている。

本年5月27日午後6時30分からパレスサイドホテルに於いて、両同窓会会長以下5名ずつの役員出席のもと連絡会議を行い、連絡会議運営要項を確認しました。



《会員だより》

今号の会員だよりには 15 名の会員の方より寄稿いただきました。
この場をお借りして御礼申し上げます。

5 期ピアノ 藤 初子

卒業以来早いもので、半世紀を過ぎ、今年はいよいよ喜寿を迎える歳になりました。先ずは健康に過ごせている事に感謝しています。私の芸大生活スタートは出雲路校で、その後武徳殿に移り、一年間を過ごしました。それから 20 数年後に洛西に立派な学舎が出来、偶然その真新しい講堂で、娘の入学式に出席する事が出来、感動も一入でした。私と音楽との出会いは、我が家にピアノがあった事が始まりです。5 歳からあの厳しいレッスンで有名な、梅田しず先生のご指導を受け、何とか音楽の道に進むことが出来ました。振り返ってみますと、学生時代は懸命にピアノに向かう毎日で、楽しみより苦しみの方がはるかに大き

かったと思います。家庭に入り子どもの手が離れた 30 歳頃から自宅でレッスンを始めました。未熟な私でしたが大勢の方との出会いがあり、色々な事を学ばせて頂きました。今では母子 2 代でレッスンに来られ、「先生まだまだ頑張ってくださいね」と励まされ、元気をもらっています。大した音楽活動はしていませんが、地道に後進の指導に当たれたことは何よりの財産だと思っています。残された人生、自分の身を案じつつ、真声会の名の様に、真の声を微力ながら教え子達に伝えて行ければと思っています。最後になりましたが、今後の真声会の益々の発展を祈念しております。

5 期ピアノ 小川 隆宏（教育功労による文部科学大臣賞を受賞されました）

創作オペラ「安寿と厨子王」を発表して

小生は毎日散歩する事を最大の趣味としている。散歩を始めたのはかなり久しい。もう 45 年になるだろうか？それは 36 才の頃一年間休職したことに始まる。回復後少しずつリハビリを開始する。自宅から祇園神社まで一キロぐらいは有るが、其処まで辿り着くのに精一杯。これでは駄目だと一念発起、先ずは「歩く事」と少しずつ距離を延ばした。それ以降毎日を歩く事に専念、雨降り、台風の日、正月であろうと欠かさず散歩している。お陰さまで現在まで健康で過ごす事ができたのは散歩の賜物である。散歩が何時しか趣味となり出した。

毎日の散歩時にふとメロディが浮かぶ。忘れない内にと 2 小節のモチーフをその都度メモしておく。かなり多くのメロディが蓄積。ある時ふとした奇縁で有名な故作曲家の先生とお知り合いになる。京都に見えたら必ず祇園／先斗町で少し一杯というおつき合いが始まる。会話の中に作

曲の話が出て曲作りは誰でも出来る、評価は相手が善し悪しを判断すれば良い。研究論文も、小説も、随筆も相手が評価することであり特別構える必要無し。と云うお言葉に甘えて、少しずつ曲を作るように心掛けた。一時は附属幼稚園の園長時代に、園でのステージ発表の場が飛び込んでくる。園児対象の曲は勿論の事、その保護者対象の発表出来る作品等必要にかられ色々として作品が出来て行く内にこの度、創作オペラ「安寿と厨子王」を発表する期が熟した。

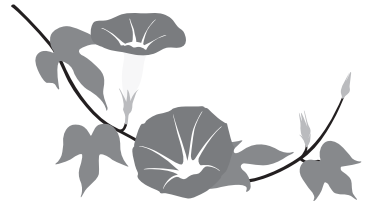
小さい頃、毎日母親から「安寿恋しやホウヤレホウ」と歌い聞かされていた事が懐かしく、物語に随って、森鴎外の詩に森本徳子氏に一連の補詩を編んで頂き作品完了。誰でも何処でも何時でも口ずさむ事の出来る曲が、一般大衆には必要では無からうか？と感じつつ・・・。

お蔭様でこの度の、創作オペラ「安寿と厨子王」平成 26 年 3 月 8 日（初演）京都コンサートホールムラタが満席。共演の学友にも感謝感激、傾首礼。

8 期ピアノ 西村 靖子

青葉の美しい季節を迎える度に、五十数年前のことを思い出します。卒業（短大）して、その当時始まった幼稚園を会場に、グループで幼児に音楽の手ほどきをする講師で、社会人としてスタートしたのでした。勿論、楽器店が進めていた教室でしたので、しっかりしたカリキュラム、研修も受けてのスタートでした。でも自分の学んできた道と違った方法での指導、そして生徒が幼児、とまどいながらも、かわいい子ども達に元気をもらい、いつの間にか、音楽の扉を開くお手伝いに喜びを持ってするようになりま

した。結婚して 2 人の子どもの子育てをしながらも、ホームレッスンで続け、現在も途切れる事なく続けております。又、近年は良き先輩、後輩に指導を受けながらピアノデュオに挑戦しております。ピアノデュオを弾きたいからレッスンに来たいという生徒とも、アンサンブルを楽しんでいます。コーラス、デュオ、同じ学校で学んだ同窓生に囲まれていて幸せです。生徒達にも、上手に弾けなくても、いくつになっても、ピアノを通して音楽が身近にある暮らしをしてほしいと願っております。



20期ピアノ 西村 孝子

「見上げてごらん・・・・」
GW恒例となった高槻ジャズフェスティバル。無料で楽しめる有名プレイヤーのセッションを聴く為に、開演2時間前から並ぶ事も厭わない。今年も素晴らしい演奏に大満足。その最後のステージに出演した盲目のジャズヴォーカリスト「ダイアン・シューア」。日本人グループとの素晴らしいセッションの後、1人で弾き語りを始めた。心に滲みる歌声を支えるピアノ演奏は、音をはずす事なく、余りに美しく、又リズムカルに聴衆を魅了した。(見えないのにどうして・・・?いやいや、きっと見えないから・・・!)

20期ピアノ 内藤 泰子

生まれ育った京都を離れ、舞鶴で暮らして35年になります。今でこそ高速道路が繋がって京阪神へも近くなりましたが、当時は家政短大へ週一、週末はコーラスの伴奏に、と車で通うのも一仕事でした。今思えば若さ故に出来たのだと思います。教授のO先生から「そのうち高速道路が出来たら頑張って来て下さい。」とお言葉を頂き、しばらく非常勤を続ける事が出来ました。先生のお陰で地方に引きこもる事なく、60を過ぎた今も果敢に動く事が出来、

23期打楽器 磯部 将門

「京芸卒であることに感謝！」
卒業と同時に公立中学の教員になり吹奏楽連盟の理事長を務め今年定年を迎える。岡崎の校舎は講堂がホール、武徳殿が体育館、副科のレッスンはプレハブで、守衛のバイトで見回りしてからの南館での練習が懐かしい。「少子高齢化」が、様々な分野の「文化活動」で活動の低迷と円滑な世代交代を阻んでいると聞く。しかし吹奏楽がそうでないのは何故か、これは吹奏楽が子供たちが集う学校現場に活動の拠点を置き、音楽の素晴らしさを味わわせることを

29期声楽 北村 敏則

京都芸大が岡崎校舎から洛西の地へ移転した年、私はその第一期生として入学しました。同期には今や世界的な指揮者である佐渡裕氏がいます。卒業して2年後には大学院も追設されやはり第一期生として入学、修了と同時に教員として母校に身を置くことになりました。その後ウィーンに留学。今のようにインターネットなどなく少ない情報の中で勉強していた私にとっていきなり目の前に現れた長い歴史の上に成り立っている異文化に接し、その町並みを

Q「貴方は目が見えないのに独りで暮らして大変でしょう？」A「いいえ、何の問題もないわ。目が見えないからブランドの服も貴金属も必要ないし、何もいらないわ。もし世界中の人が全員盲目だったら、戦争も起こらず平和でいいのにね！」会場は拍手でわれんばかり。私も目はウルウル、胸一杯。そうだ、地球は一つの国なのだ。そして空は境界線もなくずっとずっと繋がって、地球国を包み込んでいるのだ。そう思えば何人なんて関係ない。何を争う事があるだろうか。どうか平和な地球国を!

感謝しています。こちらでは、ママさんコーラスの伴奏を初めとして、アマチュアオケとのピアノコンチェルト、難民を助ける会主催のチャリティーコンサート、震災救援のチャリティーコンサート等ボランティアばかりですが、ピアノの要望があれば引き受けています。人前で弾ける機会があつと何年あるのか、何年も無いのかもかもしれませんが、京都の端っこで音楽と接していられたら幸せに思います。

通じて子供たちの人間形成に役立てようと取り組み、教育に熱心な教師と保護者を含む社会の理解が子供たちを吹奏楽の虜にし、これが引き金となり子供が社会人となり自らの意思でこの活動を引き継ぎ、更には次世代の後継者を育成する指導者へと好ましい連鎖を生み今なお発展し続けていると考える。チラシに京芸卒の文字を見つけ後輩の活躍が嬉しいが、教育委員会勤務時代に教員の出身校を調べて、教育大より多い時代もあったのに、今は私大に追い抜かれ後輩が途絶えて久しいのが寂しい。

眺め呼吸するだけで五感が研ぎ澄まされる思いがしたことを今でも鮮明に覚えています。そしてその体験を元に現在までたくさんの音楽家の方々や多くの学生さんと共に音楽に携わって来られていることは私の大きな喜びとなっています。そしてこの度、洛西校舎も街中への移転が決まりました。新校舎構想への期待を胸に京芸と世界が同時進行し、音楽を通してあらゆるものの可能性がさらに追求されることを望んでいます。

3 2 期ピアノ 信多（興津） 仁子

大学では、入学前からの恩師である故 下村和子先生が退官された後、ドイツから帰国されたばかりの服部久美子先生に師事し、先生の勧めもあって卒業後ドイツに留学しました。帰国後は、同期や先輩に声をかけて頂いたお陰で、ソロ演奏や伴奏、学校公演などの機会を得ることができました。そして、新井多佳子さん(32 期 fl.) とは、「ふらっといい音(ね)」という、会社帰りに気軽に立ち寄っていただけのサロンコンサートを、結婚するまで定期的に続けてきました。結婚し、芦屋に住んで 20 年、阪神淡路大震災の時にお腹の中にいた長男も大学生となり、次男は高校 2 年生。息子達の子育ては思った以上に大変でしたが、幼稚園の記念事業で演奏したのをきっかけに、親子で聞けるクリスマスコンサート、母親達の親睦コンサート、小学校で

は、忙しい役員ママ達のための癒し系コンサート、そして長男のクラスが荒れた時には、途方に暮れたママ達を応援するコンサートなどを保護者達と企画し、演奏してきました。笑顔で元気になったと喜んでもらえるのは勿論嬉しい事でしたが、どんな時にも必要とされる音楽の力を改めて知る機会となりました。その幾つかのコンサートには、同期の方々にも共演して頂き、盛り上げて頂きました。ここ 10 年、毎年定期的に出演させて頂いているコンサートも、誘って下さったのは先輩方。振り返ると、京都芸大という強い絆のお陰でここまで音楽を続けてこれたのだと強く感じています。その絆を大切に、これからも人々の心に寄り添えるよう、演奏を続けていこうと思っています。

3 5 期声楽 田末 勝志

大学を卒業してもう 25 年が過ぎました。私は音楽を始めたのが高校 3 年生からだったので、大学時代は課題に追われる毎日でした。卒業してからは歌う事にストレスやプレッシャーを感じ、逃げ出したいという思いが正直なところでした。そんな時、合唱指導の依頼を頂き、再び経験も無い世界に飛び込みました。行ってみると 100 人近い大学生が眼を輝かせて待っていてくれました。それからまた課題に追われる毎日でしたが、幅広いジャンルの合唱

曲やアンサンブルをする楽しさに引き込まれていきました。今では合唱を通じて、小学生から大学生、80 歳前後、と幅広い方々に囲まれて音楽をしています。そんな中、音楽を練習している時に浮かぶのは大学時代に学んだ事。当時は理解が出来なかった事ばかりなのに不思議なものです。これからも私を育てていただいた大学、先生方に感謝の気持ちを持ちながら音楽を楽しみたいと思っています。

4 1 期ピアノ 小林 千恵

大学院を修了して、早 10 数年。でも、そんな年月が流れたとは実感できない（したくない？）というのが正直な気持ちです。卒業後は、これまで伴奏の仕事に恵まれ、オペラ、オケ伴の合唱、指揮ピアノ等で、オーケストラものを弾く機会も多く、スコアを見ることが楽しめるようになりました。いろんな指揮者、共演者の方から、たくさんの素晴らしい刺激をいただき、いつも本当に仕事が好きです。昨年から今年にかけては、博士課程リサイタルを 2 本伴奏させていただける機会に恵まれ、久しぶりに講堂や大合奏室に足を踏み入れました。音楽棟から聞こえる様々な

楽器の音や歌声、学生の談笑する声、学内に貼られた演奏会のチラシ・・・それらは学生時代の気分を思い出させてくれ、懐かしい思いをしました。そして久しぶりに「仕事」ではなく「勉強」での共演は、レッスンで伺った先生からも、そして共演の方々からも、この上なく刺激をいただき、自分も学生に返ったような、身の引き締まる思いでした。仕事に恵まれ、またこうして音楽を続けていられるのも、すべて芸大で培った基礎力あってのこと、感謝の気持ちを常に忘れず、これからも精進していきたいです。

4 7 期声楽 木下 紀章

小学校六年生の時、『三大テノールの競演』をテレビで見て、出演者の一人パヴァロッティへの声援が一番大きく、鳴りやまない拍手に「なんだこの人は！」と興奮したことを今でも鮮明に覚えています。当時、音楽的なことは全く分かりませんでしたが「きっとすごい人なんだろうなあ、この人みたいになりたいなあ。」と幼いながらに思い、人前に出ることが好きだった僕は、拍手の鳴りやまないような人になりたいと考え始めました。それから、たくさんの音楽を聴き、高校二年生からは歌を習い、京芸に入学す

る事が出来ました。卒業後はウィーンへ留学し、沢山のヨーロッパの音楽にふれました。留学当初は、音楽の都ウィーンと言ってもあまりピンと来ませんでした。レッスンの他にオペラを鑑賞し、日常生活を送ることからもそれを体で感じる事が出来ました。帰国後は活動拠点を東京に移し、二期会会員としてオペラやコンサートに出演しています。最近では、関西の舞台に立つ機会も増え、京芸時代の先生や先輩後輩と共演させていただき大学時代を懐かしく思い出します。

50期作曲 山根 明季子

福島、ニューヨークとワシントンでの Music From Japan で笙と箏莫の作品を、サントリーサマーフェスティバルでは琵琶コンチェルトを書き、西洋クラシック音楽と、日本の美意識に向き合いました。日本人の私が出来ることやしたいこと。私は、ポップさと可愛さ、毒々しさ、といった、現代日本のポップカルチャーの放つ独自の質感を、音楽で追求し続けています。また、演奏会への作品提供、昨年は先輩の菊本和昭さんのリサイタルに新曲を書き、久々の協働に心が踊りました、その他、子供のための音楽、吹奏楽、浜松国際ピアノコンクール課題曲としての出版や、

音源のリリースも増えてきました。先鋭的に自分の音楽を追求することと同時に、聴く人関わる人にワクワクやときめき、嬉しい刺激を提供したくて、日々頑張っています。プライベートでは幼い子供を育てながら学びと発見の連続で、これまで、そしていつも支えてくれる沢山の人に、ありがとうございます！



53期ヴァイオリン 岡田 真理子

今年で卒業して7年になります。在学時はヴァイオリンを専攻しておりましたが、卒業して半年後にヴィオラに転向しました。その後はオーケストラのエキストラやレッスンなど、フリーランスでの活動を続けてまいりましたが、先輩方にカルテットに誘っていただいてからはリサイタルやNHK ラジオへの出演など、大変充実した生活を送らせていただいております。オーケストラだけを演奏活動の中心に据えていた頃から考えると、室内楽に本格的に取り組

むようになってからは学ぶことが増えたように思います。オーケストラでの身の置き方と室内楽でのそれは随分と違いますので、幅が広がったのはもちろんですが、室内楽の活動を通しての新しい出会いや演奏会を組み立てるという経験などは、私の人生にとって大きな「糧」となっています。私は今年で30歳になります。節目の年でもありますので、また新たな気持ちで音楽に向き合っていこうと思います。

53期ヴァイオリン 中野 祥世

私は卒業してすぐ後に兵庫芸術文化センターに入り、たくさんの方の貴重な経験をいただきました。毎日が新しいことだらけ、ついていくのに必死、自分のやってきた音楽とはまた違った要求もされる、本当に新しい生活のスタートでした。徐々に環境になれていくと少しずつ自分の視界が変わってきたことを覚えています。できなかったことができ

るようになったり、様々な楽器の音色を楽しむ余裕が生まれたり、自分の音楽が少しずつ皆の作る音に溶け込んでいく感じがわかって嬉しくなったり。社会人になり、今その3年間で培われた経験と仲間が、私が音楽をやっている上でとても支えになっています。

54期ヴァイオリン 朴 梨恵

あっという間の5年です。京芸卒業と同時に渡独し、2年後ハノーファー音楽大学を卒業。先日ベルリン芸大修士試験に合格し、間もなく博士課程を卒業します。京芸を卒業する時に、これじゃあかん、という思いがありました。それまで音高や京芸で学んだ事は沢山あった。経験、感動、先生の教え、仲間からの助言等々。それとは裏腹に、自分が出来る事は、あまりにもバランスが取れてなかった。今も、自分は理想を表現出来ているのか、課題は絶える事はありません。結局は私がヴァイオリンを選んだ原点は、本能的にそこかもしれない。自分は音楽を前には決して器用

でなく、謙虚で居ざるを得ない。自分にとって音楽はそういうもの。それは遅ればせながら やっと発見した、大事な覚悟です。私は有難い事に、ハノーファーでは、北ドイツ放送交響楽団で研修生として弾き、その後ベルリン・コミッシェ・オペラで研修もさせて頂きました。今もエキストラとして働かせて頂き、先日は二年ぶりに弾くトラビエータのプレミエでした。小さくても良い、いつか社会に繋げる為に、今この過渡期は出来る事は何でもしたいと思っています。



真声会 各支部活動報告

大阪支部 <http://senri-music.com/shinseikai-osaka/>

サロン・コンサート 2014 と講演会、そして、総会

今年度の総会も、昨年と同様に、コンサートと講演会と総会をドッキングして、6 月 22 日 (日) モー
ツアルト・サロン (地下鉄「南森町」) で行います。まず、1 時 30 分から「サロン・コンサート 2014」を
開きます。出演は、阪口楓 (59 期 sop)、平本直規 (59 期・大学院在 pf)、宮崎真理子 (52 期 pf)、本庄ちひろ (51
期 fl)、西岡仁美 (51 期 pf) の皆さんです。フレッシュな皆さんの歌、ピアノソロ、フルートを約一時間聴
かせていただきます。

続いて、講演会です。私たちは、集まるとよく「音楽は社会に貢献しているか」についての話題になりま
す。そこで今回は、15 期の松本真理子さん (マリンバ) を講師に、豊富な経験とそこから得られた音楽の
持つ力について興味深いお話を伺い、みんなでディスカッションしたいと思います。以上は、ワンコイン・
500 円で、一般公開とします。

場所を移して、3 時半ごろから、向かいの喫茶店「珈琲苑」で総会です。お茶とケーキ、サンドウィッチ
を囲みながら、今終わったコンサートの出演者を囲んで、感想を述べ合いながら出席者同志の親睦を深めま
す。もちろん総会ですから、議事として、一年のまとめ、会計および監査の報告、事業計画など話し合います。
もっとも、この稿をお読みいただくときは、総会は終わっていますが、当日の様子、新しく選ばれた世話役
の役割分担などは、次号で報告いたします。

支部へのお問い合わせ・入会は、大阪支部事務局 545-0004 大阪市阿倍野区文の里 4 の 12 の 25 樋口
博行方 電話とファクス 06-6624-3425 まで。

副支部長・広報担当 金森重裕 (6 期 cl)

京都支部 <http://shinseikai-kyoto.com/>

京都支部も 4 月 1 日から 2014 年度の活動に入り、去る 5 月 18 日 (日) には第 25 回総会を開催致しました。
今回は特に来年度の役員改選に備えて新しい風を入れる事を目的に、選挙による役員選出方法に切り替える
旨の承認を得て、役員改選に向けて準備を進めています。また総会のあと、京都市立芸大名誉教授で、現在
京都コンサートホール館長としてご活躍のピアニストの田隅靖子先生をゲストとしてお迎えして「作曲家の
ふるさとを訪ねて」と題して、先生の長きに亘るコンサート活動を通して、一人旅で多くの国々を訪ねられ、
夫々の作曲家の軌跡についての有意義なお話を伺う事が出来ました。

また昨年の第 30 回記念プロムナード・コンサート開催に続いて、今年も 9 月 14 日 (日) 午後 2 時から
府民ホール・アルティに於きまして、プロムナードコンサートを開催致します。演奏はソプラノ独唱、ピア
ノ独奏、シロフォン&マリンバ、クラリネット独奏、2 台のピアノのバラエティーに富んだ 5 ステージです。
是非皆様のご来場をお待ちしています。

尚、毎年新卒・院修了生の皆様には京都支部へのお入会のご案内をしていますが、卒業期を問わず、既卒の
皆様にも是非京都支部にご入会頂きます様お待ちしております。

連絡先：大須賀留美子 (13 期 声) TEL & FAX 075-983-0940

E: メール: ohsuga@iris.eonet.ne.jp

支部長 山田晏子 (10 期声)

滋賀支部

去る5月25日に支部総会を開催し、今年度がスタートしました。3名の新人を得て、会員数も192名となりました。ちなみに会費納入率は4割程度なので、支部でも納入キャンペーンが必要ですね。

今回は役員改選の年でしたので、役員の紹介をします。

支部長：杉中博(19期) 副支部長・事務局：井出悟(20期)

会計：小松文郎(21期)

広報：福島あかね(43期) 桑名しのぶ(47期)

杉本多佳子(48期) 奥村夏海(55期)

研修：田村由美子(36期) 角間秀子(38期)

小川絵理(52期) 山口洋子(40期)

監査：椿久美子(5期) 奥村隆雄(16期)

なお、25年間会計を務めていただいた水野正裕氏(21期)が昨年12月に亡くなられたことは支部にとって大きな痛手でした。御冥福をお祈りします。

支部演奏会は11月22日(土)にしがぎんホールにて開催予定です。

ところで滋賀では滋賀音楽振興会(略称おんしん)が若手演奏家を応援する新人演奏会を開催しています。おんしんは会長に中谷満(18期) 副会長杉中博(19期) 理事、会計にも支部会員が関わり、運営しています。ダイレクトに支部の活動と言う訳ではありませんが、この場をお借りし、紹介させていただきます。今回で13回目を迎える新人演奏会は6月7日(土)びわ湖ホール小ホールで開催します。新会員も含め、若々しい演奏が聴けることでしょう。

おんしんでは音楽文化の継承発展の為、各音楽大学同窓会との関係を考えているところです。他大学では支部がなかったり、休眠中のところもあります。支部設立に向けて何らかの刺激を与えられたらと思います。

また、滋賀の音楽教育を考える懇談会も2回持ち、将来へのヴィジョンを模索中です。

支部長 杉中 博(19期Tp)

中部支部

2010年に旗揚げした中部支部も今年で5年目を迎え、今年度はいよいよ念願の中部支部主催のコンサートを開催することになりました。この文章が会報に掲載される頃にはすでに演奏会も終わり、次に向けての話が始まっていることでしょう。やはり演奏会ができる、聴いてくださる方に音楽を届けられるという喜びは何事にも代えがたく、音楽に携わるものの本能かもしれないとさえ思います。また演奏会を通じて、中部支部にも「社会との繋がり」といった側面が生まれてきたことを感じます。

そして今年度はいよいよ中部支部もホームページを立ち上げることになりました。既に松井昭彦広報委員(14期作)の多大なる御尽力の下、着々と制作が進んでいます。公開の暁には本部、各支部、そして会員各位からのリンク/アクセスをよろしくお願いします。

さて、中部支部の特徴は何と言ってもそのエリアの広さです。愛知、岐阜、三重の東海三県に加えて北陸エリア福井、石川、富山、さらに長野、静岡と8県にまたがり、会員数は192名(平成26年5月現在)を擁します。これまで中島百合子支部長(19期作)を中心に、支部長のお人柄そのものの温かな雰囲気の中、支部報発行、委員会、総会などを重ねて会員間の交流促進に努めてきました。これからは内・外ともにさらに繋がり作りに工夫をこらし、地方に居ても「京都芸大を卒業して良かった」と実感できる活動を目指していきたいと思います。

広報委員 村上 栄子(31期作)

中部支部 連絡先

〒500-8173 岐阜市田生越町1-6

Tel&Fax: 058-263-6763 / e-mail: yuripy@ruby.ocn.ne.jp 中島百合子(支部長) 宛て

奈良支部

1 月 18 日にスタジオかまぼこにて音出し会とその後新年会をいたしました。

少し参加者は少なかったですがいろいろな曲を合わせたり、新年会では色々と親睦を深めることができました。その後 5 月に支部報 68 号発行し、5 月 31 日に支部総会を開催いたしました。そこで支部長以下役員の留任と一部新たな役員を迎え入れることとなりました。任期は 2 年になります、どうぞよろしくお願いいたします。

今後の予定は 8 月に音出し会を計画中です、日程は未定です。ご興味ある方はぜひお問い合わせください。

あと、来年の 2 月 10 日に第 16 回奈良支部定期演奏会を開催いたします、只今絶賛参加者募集中でございます。

もしご興味等ございましたら、真声会奈良支部事務局（E-mail shinseikai_nara_shibu_info@yahoo.co.jp）までお気軽にお問い合わせください。どうぞよろしくお願いいたします。

支部長 菊田義典（42 期声）

関東支部

4 月 25 日、庭のホテルにおいて第 19 回総会及び懇親会が和やかにとり行われました。今年の関東支部はすばらしいスタートダッシュ！総会を前に 4 月 20 日、ピアノ科有志によるユニット、ピアノアンサンブル doux の狛江公演（出演：30 期丸山慶子、30 期黒田智美、31 期神代稔子、34 期下浦暖子 / 狛江エプタザール）開催。第 8 回目を迎える本公演（出演：32 期奥田章子、32 期高橋知子、32 期元木いずみ、34 期高橋律子、35 期小屋聖子 / 日比谷松尾ホール）も 6 月 1 日に充実した内容で開催されました。

5 月 1 日、会報 Harmony 第 18 号を発行。恒例のインタビューコーナー「この人にきく！」では、1 期声楽の熊谷房子さんに登場していただき、音楽を傍らにしたこれまでの道のりと今も変わらない情熱を語っていただきました。また会員の声として、高崎在住の小松久美さん（27 期ピアノ）から楽しいご当地レポートを、広報担当として今年度幹事に加わってくださった高木敏行さん（31 期ヴァイオリン）から Facebook の楽しみとその中に作ってくださった非公開グループ「京都市立芸術大学のなかま」へのご案内を投稿していただきました。Web 上では日々ミニ同窓会が繰り広げられています。

来年はいよいよ関東支部創設 20 周年。記念コンサートに向けて実行委員会も立ち上がり、具体的な準備が始まっています。

副支部長 曾我尚江（27 期 P）

2014 年度 会費納入のお願い

今回、2014 年度（平成 26 年度）の会費未納の会員の方には、振込用紙を同封しています。会費は、年会費 3,000 円、又は、終身会費 50,000 円となっております。今年度分が未納の方は、恐れ入りますが事務手続き上、**8 月末までに**会費をお納めいただきますよう、お願いいたします。銀行引き落とし手続きをされている方は、9 月に会費の引き落としがありますので、8 月中に口座へのご準備をお願いいたします。終身会費は随時受け付けております。

尚、会費納入状況につきましては、封筒の宛名面に記載されておりますのでご確認ください。

真声会本部役員一同

青山政雄先生との出会い

森田 照美子(7期・作曲)



1957.5.15 宇治川ライン(編集部収集)

青山先生と初めてお会いしたのは京都女子学園中学校の2年生の時でした。その頃私は、小学校の恩師故菊田先生が紹介してくださった、故近藤先生に、基礎から教えを受けていました。近藤先生は堀川音楽課程の設立の頃、教鞭をとっておられ退職後後進の指導をされていました。堀川高校音楽課程を受験したいとお話したところ、青山先生を紹介してくださいました。

それまでの私は、NHKの子供のど自慢に出場したり、銀の鈴子供音楽祭の京都代表として椿(藤井)園子氏とご一緒

に高松宮邸で演奏したり、玉城(波多野)先生・藤井氏とご一緒に綾部小学校のピアノ開きに招かれたり、輝かしい(???)少女時代でした。

青山先生の指導を受ける事になり、母と二人で先生のお宅をお尋ねしました。市電を乗り継ぎ稲荷神社で降りて、踏み切り渡つて直ぐの処が先生のご自宅でした。胸がドキドキして、戸惑っている私と母に、奥様が優しくお声をかけてくださり、先輩のレッスンを見学する事になりました。レッスンをされていた先生が、突然後ろを向かれて「今ピアノで弾いた音は何」と質問されました。何も答えられない私に「集中して聴いていないとだめ」とお叱りの言葉が飛んできました。先輩はドイツ音名で答えていました。私には全く理解できなくて、泣き出しそうになりました。先輩のレッスンの後、色々とお話を聞いてくださいましたので、厚かましく、私は歌が大好きで、童謡歌手でなくオペラ歌手になりたいと申しました。先生は苦笑いをされながら、それなら声楽を専攻するようと言われ、故植田先生をご紹介してくださいました。それから、声楽とソルフエージュは植田先生、ピアノと楽典は青山先生、2人の先生の特訓が始まりました。ところが変声期だと思っていた声がかたんと出なくなり、検査を受けたところ、声帯の発音が遅れ左右対称でないため、受験は無理と言われました。どうしても堀川高校受験を諦めることが出来ず、作曲科で受験する事になり、青山先生の猛特訓のご指導で、入学することが出来ました。

堀音に入ってから厳しい作曲のレッスンについていけず、何時も青山先生に助けて戴きました。大学受験の時も、このままでは合格できないと言われて、高校には内密に鈴野(藤原)先生の指導を受けられようにしてくださいました。大学に入学してからも、早朝のソルフエージュの補講(難しかった)を受けたり、京都放送局(KBS)で放送されていた京都市の広報番組「日本の唱歌」のアレンジのお仕事を紹介して戴いたり、色々お世話になりご指導を受けました。青山先生は、其の後わらび座の音楽監督になられ大学を退職され、晩年京都に帰つてこられました。私はアレンジした作品を持参して河原町のマンションをお尋ねしました。私の作品の、琴・胡弓・ピアノ・歌のための京都の民謡の曲集の中から、先生の曲に少し使ってくださいることになり、誠に光栄でした。レッスン室には、琴・三味線・胡弓・尺八・笛等の和楽器があり、昔時々聴かせてくださった事を思い出して、お話しが弾みました。今も天国で和楽器を演奏して楽しんで居られることと存じます。先生、本当に有難う御座いました。ご冥福をお祈り申し上げます。

青山政雄先生の思い出

小川 隆宏(5期・ピアノ)

この度青山政雄先生ご逝去に際しここに慎んで御悔やみ申し上げます。先生とのお出会いは京都音楽短期大学のソルフエージュの授業の時に始まりますね。

なんといいですか何時も柔軟な感じで常に真直ぐにしておられる事が殆ど無かったように記憶します。しかしながら音楽の深さは素より人間としての個人の教養の奥深さは底知れ無く、何処までも奥深さが有ったよう

に記憶します。当時私は、他の文科系大学を卒業し、非常勤で女子高校へ音楽を数コマ担当していました。音楽の単位取得の為京都音楽短期大学に入学した訳ですが 4 年制の大学で取得した一般教養の単位はすべて認定して頂いたおかげで、空き時間が沢山出来、2 キロばかり離れた女子高校に非常勤で音楽授業担当のご配慮頂いたのも先生のお陰です。其の頃は音楽の先生が不足していたことに起因があります。(現時点では考えられない事です)

高校で合唱の指導が必要なため指揮法を特別にお願いして個人レッスンをご教授賜りました。先生のご自宅で手を取り教えて頂いた事が今でも大変お役に経っております。また、先生は絶対音をお持ちであったようです。我々では感じられない音の高低でも即座に指摘され吃驚した事が有りました。絶対音と相対音について色々対話した事が有ります。絶対音よりも相対音の方が極度に至ればこれに勝るもの無しと云う結論で安堵させられた事が有ります。

何時も、ニコニコとして卒業以来何処でお目にかかっても少しもお変わりなく、近年は青山記念館ロックザールで、時々お目にかかっていました。最近お姿を見る事が少なくなったのでどうなされたのかなと思っておりました矢先、今回の訃報に接し、先生のご威徳を凌ぎ感謝の念と、また先生の御教授の御功績は只管なものありきとし、永遠に清らかに御安泰なされますことを祈念し、改めてここに慎んで哀悼の意を捧げます。

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます。

8 期 ピアノ 山村 (川野) 紀久子さま 2013 年 8 月 ご逝去 9 期 声楽 沼崎 靖子さま 2014 年 2 月 ご逝去
21 期 トロンボーン 水野 正裕さま 2013 年 12 月 ご逝去 46 期 声楽 石黒 説さま 2013 年 12 月 ご逝去

あしあと

今年 10 月以降以下の会議を行ってまいりました。従来の拡大運営委員会に加え、将来ビジョン推進委員会の開催や、大学事務局や美術学部同窓会との協力関係協議の会議も開かれました。

2013 年 11 月 10 日 (日) 18:00 ~ 21:00

ザ・パレスサイドホテル

第 22 回拡大運営委員会

出席者: (以下敬称略) 大村、大西、松本、朴、金森、佐藤、中村公

議題: ① 会報第 57 号の発行を振り返って

② 大学との話し合い報告

③ 「象の会」との話し合いについて

④ ホームページのリニューアルについて

⑤ 演奏会の後援について

2013 年 11 月 27 日 (水) 18:00 ~ 20:30

ウィズユー

象の会・真声会役員交流会

出席者: 象の会 (上村淳之、阿部緑、望月重延、小山格平、野崎邦雄、開本恭子) 真声会 (大村益雄、大西多恵子、松本真理子、三井ツヤ子、佐藤敏子、朴実) 大学事務局 (芦田、写真記録担当者)

議題: 確認事項文書への署名

2013 年 12 月 20 日 (金) 10:00 ~ 12:00

京阪ホテル喫茶

将来ビジョン推進委員会第 4 回会議

出席者: 朴、青谷、中村公

議題: ① 真声会の組織・運営の見直し

2014 年 1 月 28 日 (火) 18:00 ~ 21:00

ザ・パレスサイドホテル

第 23 回拡大運営委員会

出席者: 大村、大西、松本、朴、三井、伊吹、佐藤、中村典、中村公

議題: ① 美術学部同窓会「象の会」との交流会報告

② 役員会の実施案について

③ 将来ビジョンについて

④ 会費について

2014 年 2 月 4 日 (金) 13:00 ~ 15:00

住友生命ビル喫茶

象の会事務局・将来ビジョン推進委員会会議

出席者: 朴、中村公、象の会関係者

議題: ① 両会の共同会議について

2014 年 3 月 4 日 (火) 18:00 ~ 21:00

ザ・パレスサイドホテル

第 24 回拡大運営委員会

出席者: 大村、松本、佐々木、朴、佐藤、樋上、中村典、奥田、中村公

議題: ① 「象の会」との会合についての報告

② 役員会の実施案について

③ ホームページのリニューアルについて

④ 卒業式・入学式について

2014 年 4 月 14 日 (火) 18:00 ~ 21:00

ザ・パレスサイドホテル

第 25 回拡大運営委員会

出席者: 大村、大西、佐々木、金森、朴、佐藤、樋上、奥田、中村公

議題: ① 役員会の実施案について

② 「将来ビジョン」の関連について

③ ホームページのリニューアルについて

④ 「会報 58 号」の発行について

2014 年 5 月 13 日 (月) 18:00 ~ 21:00

ザ・パレスサイドホテル

第 26 回拡大運営委員会

出席者: 大村、大西、金森、佐々木、朴、杉中、伊吹、樋上、佐藤、奥田、中村典、中村公

議題: ① 役員会の実施案について

② 2013 年度決算・2014 年予算案について

③ 「将来ビジョン」の関連について

④ 会則の改正の予告について

⑤ 「会報 58 号」の発行について

⑥ 南都銀行について

2014 年 5 月 27 日 (火) 18:00 ~ 21:00

ザ・パレスサイドホテル

象の会・真声会 第 1 回連絡会議

出席者: 象の会 (上村淳之、望月重延、阿部緑、小山格平、野崎邦雄、開本恭子) 真声会 (大村益雄、大西多恵子、大嶋義美、佐藤敏子、朴実、中村公俊) 大学当局 (廣野副理事長、南事務局長)

議題: ① 大学移転に伴う協力体制について

② 芸大「友の会」入会について

③ 同窓会終身会費徴収方法について

④ 芸大祭模擬店に出店する件



真声会会員のコンクール等受賞者

青柳 歌奈 (音楽学部声楽専攻 4回生)
2013年 声楽コンクール in 大阪(平成25年4月28日)
金賞

塚田 尚吾 (音楽学部ピアノ専攻 2回生)
第10回富山ピアノコンクール(平成25年8月10日)
＜シニア部門＞ 次位, 北日本放送賞

浦山 瑠衣 (2011年3月 音楽学部ピアノ専攻卒業)
第37回ピティナ・ピアノコンペティション 全国決勝大会(平成25年8月21日)
＜ソロ部門＞ 特級グランプリ, 文部科学大臣賞他

塚田 尚吾 (音楽学部ピアノ専攻 2回生)
第37回ピティナ・ピアノコンペティション 全国決勝大会(平成25年8月19日)
＜グランミューズ部門 Y aカテゴリー＞ 第1位

木下 敦子 (2010年3月 ピアノ専攻卒業 ドイツ・マンハイム国立舞台芸術大学大学院在学)
第20回ヨハネス・ブラームス国際コンクール(平成25年9月8日)
＜ピアノ部門＞ 第1位

上田 友紀子 (修士課程 器楽専攻(ピアノ) 1回生)
第24回堺ピアノコンクール(平成25年9月1日)
＜F部門 大学生・一般＞ 金賞

西本 慶子 (音楽学部弦楽専攻(チェロ) 4回生)
第1回ポッパー チェロコンクール(平成25年8月7日)
＜大学生以上28歳までの部＞ 銀賞

西岡 沙樹 (音楽学部ピアノ専攻 3回生)
第19回フッペル鳥栖ピアノコンクール2013(平成25年10月6日)
＜フッペル部門＞ 1位

辰野 翼 (平成25年3月 学部ピアノ専攻卒業)
第17回松方ホール音楽賞(平成25年8月8日)
松方ホール音楽賞(ピアノ部門)

浦田 誠真 (音楽研究科修士課程 器楽専攻(管・打楽) 2回生)
第17回松方ホール音楽賞(平成25年8月8日)
松方ホール音楽賞(金管楽器部門)

講殿 由紀奈 (音楽学部声楽専攻 2回生)
第7回横浜国際音楽コンクール(平成25年8月25日)
声楽部門 大学の部 第2位

林 美咲 (音楽学部ピアノ専攻 2回生)
第7回横浜国際音楽コンクール(平成25年8月26日)
ピアノ部門 大学の部 第4位

塚田 尚吾 (音楽学部ピアノ専攻 2回生)
第7回横浜国際音楽コンクール(平成25年9月1日)
ピアノ協奏曲部門 審査員奨励賞

福島 珠実 (平成21年3月 音楽学部ピアノ専攻卒業)
第7回横浜国際音楽コンクール(平成25年8月27日)
ピアノ部門 一般Aの部 審査員特別賞

助野 由佳 (平成24年3月 音楽学部管・打楽専攻卒業)
第30回日本打楽器コンクール(平成25年8月24日)
ファゴット部門 第3位

森本 英希 (博士後期課程 音楽専攻(フルート) 2回生)
江戸 聖一郎 (博士後期課程 音楽専攻(フルート) 5回生)
谷風 佳孝 (平成13年3月 音楽学部 管・打楽専攻卒業)
小山 真之輔 (平成18年3月 音楽学部 管・打楽専攻卒業)
第16回日本フルートコンヴェンション2013in高松(平成25年8月24日)
アンサンブル・アワード部門 第1位

畝部 理佐 (平成21年3月 音楽学部声楽専攻卒業)
第16回日長江杯国際音楽コンクール(平成25年8月10日)
声楽 一般の部 A 第1位

浦前 華名 (平成16年3月 音楽学部ピアノ専攻卒業)
第16回日長江杯国際音楽コンクール(平成25年8月10日)
ピアノ 一般の部 A 第2位

佐藤 亜友美 (音楽学部ピアノ専攻 2回生)
第16回日長江杯国際音楽コンクール(平成25年8月10日)
ピアノ 大学の部 第2位

饗庭 絵里子 (平成21年3月博士後期課程(音楽学)修了)
栗屋潔学術奨励賞(平成25年3月15日)
昭和58年に創設された賞で、音響に関する学問、技術の奨励のため有為と認められる新進の研究・技術者に贈呈される。日本音響学会2013年春季研究発表会での受賞となったもの。

山本 康寛 (平成20年3月 修士課程 声楽専攻卒業)
第82回日本音楽コンクール(平成25年10月28日)
声楽部門 本選 第2位

清水 徹太郎 (平成14年3月 学部 声楽専攻卒業)
第82回日本音楽コンクール(平成25年10月28日)
声楽部門 本選 入選

杵野 勢津子 (平成19年3月 学部 管・打楽専攻卒業)
平成25年度新人演奏会(平成25年11月3日)
札幌市民芸術祭奨励賞(管弦打楽器部門:マリンバ)

平野 一郎 (平成9年3月 学部 作曲専攻卒業)
第30回現音作曲新人賞(平成25年11月6日)
富樫賞 聴衆賞

田原 希美（平成 21 年 3 月 学部 ピアノ専攻卒業）
第 21 回コルテミリア国際音楽コンクール（平成 25 年 11 月 16 日）
第 1 位（ピアノ部門）

酒井 さやか（学部 ピアノ専攻 1 回生）

尾上 理絵（学部 ピアノ専攻 2 回生）

第 14 回大阪国際コンクール（平成 25 年 10 月 12 日）
ピアノ部門 奨励賞 Age-U（大学生，大学院生）

二階堂 孝之（学部 ピアノ専攻 2 回生）

下林 綾（平成 25 年 3 月 学部 ピアノ専攻卒業）

第 14 回大阪国際コンクール（平成 25 年 10 月 11 日）
ピアノ部門 入選 Age-G（一般，卒業生・修了生，希望者）

池田 沙弥（学部 弦楽専攻 2 回生）

富家 聖香（学部 弦楽専攻 2 回生）

藪野 巨倫（学部 弦楽専攻 3 回生）

太田 ゆみえ（学部 弦楽専攻 4 回生）

第 14 回大阪国際コンクール（平成 25 年 10 月 11 日）
弦楽器部門 入選 Age-U（大学生，大学院生）

弘田 彩花（平成 25 年 3 月 学部 弦楽専攻卒業）

山本 善哉（平成 22 年 3 月 学部 弦楽専攻卒業）

第 14 回大阪国際コンクール（平成 25 年 10 月 11 日）
弦楽器部門 入選 Age-G（一般，卒業生・修了生，希望者）

白石 優香（平成 24 年 3 月 学部 弦楽専攻卒業）

第 14 回大阪国際コンクール（平成 25 年 10 月 14 日）
アーリーミュージック部門 入選 アーリーミュージック（古楽器）

京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会

京都子どもの音楽教室

第 65 回京都市教育功労者表彰（教育振興功労・団体）
京都市の教育，学術及び文化の振興発展に貢献した個人・団体への表彰

矢野 百華（学部 ピアノ専攻 1 回生）

第 1 回寝屋川市アルカスピアノコンクール（平成 25 年 11 月 30 日）
ソロ一般部門 第 1 位

塚田 尚吾（学部 ピアノ専攻 2 回生）

第 1 回寝屋川市アルカスピアノコンクール（平成 25 年 11 月 30 日）
ソロ一般部門 第 3 位

大坪 健人（修士課程 器楽専攻（ピアノ） 2 回生）

木口 雄人（修士課程 器楽専攻（ピアノ） 2 回生）

第 1 回寝屋川市アルカスピアノコンクール（平成 25 年 12 月 1 日）
デュオ 2 台ピアノ上級部門 第 1 位
デュオ部門グランプリ，寝屋川市長賞

池田 董（学部ピアノ専攻 1 回生）

梅川 佑里恵（学部ピアノ専攻 1 回生）

第 1 回寝屋川市アルカスピアノコンクール（平成 25 年 12 月 1 日）
デュオ 2 台ピアノ上級部門 奨励賞

若井 亜妃子（平成 20 年 3 月 ピアノ専攻 卒業）

第 51 回アルカンジェロ スペランツァ国際ピアノコンクール（平成 25 年 5 月 24 日）
第 2 位

川原 慎太郎（平成 23 年 3 月 修士課程（ピアノ） 卒業）

オルフェウス・スイス室内楽コンクール（平成 25 年 10 月 11 日）
第 1 位（バイオリン（鈴木舞）とピアノのデュオ）

田原 希美（平成 21 年 3 月 学部 ピアノ専攻卒業）

第 34 回愛知ピアノコンクール（平成 25 年 12 月 22 日）
金賞（大学・一般部門）

岩井 理沙（平成 20 年 3 月 ピアノ専攻 卒業）

第 26 回アルペン国際ピアノコンクール（平成 25 年 12 月 30 日）
第 1 位（Eccellente 部門）

中嶋 俊晴（平成 22 年 3 月 声楽専攻 卒業）

滋賀県次世代文化賞（平成 25 年 11 月 7 日）
国内外の水準の高いコンクール等で最優秀賞等の成績を修めた個人

榎本 樹音（弦楽専攻 1 回生）

第 19 回 K O B E 国際音楽コンクール（平成 25 年 12 月 13 日）
弦楽器部門 優秀賞（C 部門） 楽器：ヴァイオリン

山永 桂子（管・打楽専攻 4 回生）

第 19 回 K O B E 国際音楽コンクール（平成 25 年 12 月 11 日）
木管部門 最優秀賞（C 部門） 楽器：クラリネット

中村 由紀子（管・打楽専攻 4 回生）

第 19 回 K O B E 国際音楽コンクール（平成 25 年 12 月 12 日）
打楽器部門 優秀賞（C 部門） 楽器：マリンバ

松崎 絵美（修士課程 声楽専攻 1 回生）

第 19 回 K O B E 国際音楽コンクール（平成 25 年 12 月 12 日）
声楽部門 奨励賞（C 部門）

大森 花（修士課程 声楽専攻 1 回生）

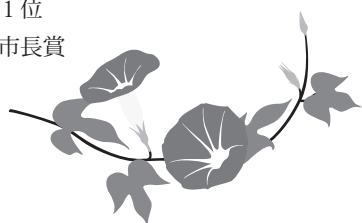
第 19 回 K O B E 国際音楽コンクール（平成 25 年 12 月 12 日）
声楽部門 奨励賞（C 部門）

清水 希（修士課程 声楽専攻 1 回生）

第 19 回 K O B E 国際音楽コンクール（平成 25 年 12 月 12 日）
声楽部門 奨励賞（C 部門）

酒井 さやか（ピアノ専攻 1 回生）

第 15 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA（平成 26 年 1 月 10 日）
大学生部門 銀賞



澤田 奈央子 (ピアノ専攻 4回生) 26年3月学部卒 4月修士入学
第15回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA (平成26年1月10日)
大学生部門 銀賞

坂口 航大 (ピアノ専攻 2回生)
第15回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA (平成26年1月10日)
大学生部門 銅賞

藤田 葉央 (ピアノ専攻 2回生)
第15回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA (平成26年1月10日)
大学生部門 奨励賞

中村 公俊 (平成18年3月 弦楽専攻(ヴァイオリン) 卒業)
2013年度青山音楽賞 バロックザール賞(平成26年1月21日)
デュオ ベル ソーニョ(妹仁美とのヴァイオリンデュオ)がヴァイオリン二重奏曲のみの演目で開催したコンサート(演奏会当日36歳以上の演奏者のソロリサイタルおよび、デュオ、トリオ、カルテットなど複数の編成や団体での演奏会を対象)

下林 一也 (平成25年3月 修士課程 声楽専攻修了)
平成25年度平和堂財団芸術奨励賞(平成26年1月13日)
滋賀県内及び滋賀県出身者で独創的なテーマに取り組み、将来、優秀な芸術活動が望める新進芸術家の芸術活動に対する助成。

上田 友紀子 (修士課程 器楽専攻(ピアノ) 1回生)
第23回日本クラシック音楽コンクール(平成25年12月3日)
全国大会 一般女子の部 第5位(1位, 2位該当なし)

中嶋 俊晴 (平成22年3月 声楽専攻卒業)
平成25年度平和堂財団芸術奨励賞(平成26年1月13日)
滋賀県内及び滋賀県出身者で独創的なテーマに取り組み、将来、優秀な芸術活動が望める新進芸術家の芸術活動に対する助成。

松尾 毅 (昭和63年3月 声楽専攻卒業)
第27回島村楽器音楽コンクール(平成26年1月12日)
作曲部門 中学生以上部門 銅賞

渋谷 有佐 (平成23年3月 ピアノ専攻卒業)
第19回 Petar Konjovic 国際コンクール(平成26年5月7~11日)
第3位

佐渡 裕 (昭和59年3月 器楽専攻卒業)
第5回岩谷時子賞(平成26年5月9日)
音楽・演劇界の明日を担う人材や、その向上・発展に功労のあった人物・団体に贈られる。

◆ 真声会後援の演奏会 ◆

♪右近恭子 坂本恵子 Piano Duo

日時: 2013年12月10日(火) 19:00
会場: 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演: 右近恭子(25期Pf)、坂本恵子(26期Pf)
曲目: J.C. バッハ ソナタ ト長調
J. プラームス 5つのワルツ op.39より、ハイドンの主題による変奏曲 op.56b
S. ラフマニノフ 交響的舞曲 op.45

♪ Unmarked Singers クリスマスコンサート'13

日時: 2013年12月15日(日) 16:30
会場: 島之内教会
出演: 奥田聖子(48期Vo)、丸山晃子(51期Vo)、乃村八千代(54期Vo)、藤原さおり(46期Vo)、坂本晃一(55期Vo)、清水俊徳(52期Vo)、辻響(58期Vo)、藤野豊(52期Vo)、樋口卓哉(55期Vo)
曲目: J.S. バッハ: 主に向かい新しき歌を歌え BWV225
T.L.de ビクトリア: アヴェ・マリア
J. ラター編: 荒野の果てに、もみの木 他

♪ドイツ・チェロ界の巨匠、ヴォルフガング・メールホルン氏を迎えて 3人のチェリスト達によるチェロアンサンブルの夕べ

日時: 2014年1月28日(火) 19:00
会場: 富山市民プラザ(アンサンブルホール)
出演: 高田剛志(38期Vc)、ヴォルフガング・メールホルン、荒井結子
曲目: J.S. バッハ: 無伴奏チェロ組曲 第6番
D. ホッパー: 3台のチェロとピアノの為にレクイエム
J. クレンゲル: 讃歌 他

♪ Joint Concert ~ Clarinets & Piano ~

日時: 2014年2月26日(水) 19:00
会場: 西宮市甲東ホール(アプリ甲東4階)
出演: 後藤真里亜(58期Pf)、武井友美(58期Cl) 他
曲目: F. プーランク 2つのクラリネットのためのソナタ FP.7
G. ガーシュイン 3つの前奏曲(クラリネットとピアノ編)
L.v. ベートーヴェン ピアノソナタ第13番「幻想曲風ソナタ」op.27-1 他

♪林裕美子とその仲間たち

日時: 2014年2月28日(金) 19:00
会場: 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演: 中井美内子(35期Vo) 他
曲目: ラヴェル: 五つのギリシャ民謡
マスネ: オペラ「タイス」より 私は美しいと言っておくれ 他

♪ PIANO DUO LUKIA Concert Vol.3 宙(そら)と海の音楽

日時: 2014年3月15日(土) 14:30
会場: 京都府立府民ホール ALTI
出演: 佐藤薫(25期Pf)、中村亜紀(32期Pf)
曲目: ホルスト: 惑星
ドビュッシー: 海
サン＝サーンス: 死の舞踏

♪池田みゆき フルートコンサート「春の風のように」

日時：2014 年 3 月 22 日 (土) 18:00

会場：ひまわりの郷 (横浜)

出演：池田みゆき (31 期 Fl)、佐藤由里亜 (Pf)

曲目：シューベルト：水の上で歌う

ドニゼッティ：ソナタ

ロドリーゴ：エスパニョレータとナポリ騎兵隊のファンファーレ

「ある貴神のための幻想曲作品 94」より 他

♪ 薮幾世子・水野雅子ジョイントリサイタル vol.2

(公益社団法人日本演奏連盟 / 山田康子奨励・助成コンサート)

日時：2014 年 3 月 29 日 (土) 17:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：薮幾世子 (30 期 Pf)、水野雅子 (26 期 Pf)

曲目：プロコフィエフ：バレエ「ロミオとジュリエット」から

10 の小品 op.75 より

アレンスキー：組曲第 1 番

ボロディン：「イーゴリ公」より だったん人の踊り 他

♪「24 人 24 色 ～音楽を紡ぐ～ バッハ平均律の世界」

日時：2014 年 3 月 30 日 (日) 13:30

会場：京都府文化博物館 別館

出演：山下由香 (26 期 Pf)、森朋世 (27 期 Pf)、嶋雅子 (28 期 Pf)、蜂谷葉子 (29 期 Pf)、水野久美 (29 期 Pf)、薮幾世子 (30 期 Pf)、吉田公美子 (30 期 Pf)、松村佳奈 (31 期 Pf)、佐々木和佳 (34 期 Pf)、加藤千恵子 (35 期 Pf)、田村幸造 (36 期 Pf)、清水道代 (37 期 Pf)、岡田ミサ子 (37 期 Pf)、浅井佳代 (37 期 Pf)、宮下薫 (41 期 Pf)、河合珠江 (51 期 Pf)、若井亜妃子 (53 期 Pf)、笹まり恵 (54 期 Pf)、栗原日菜子 (55 期 Pf)、佐渡春菜 (55 期 Pf)、阿部裕之 (教員)、イリーナ・メジューエワ (教員)、古川五巳 (元教員)

曲目：バッハ：平均律クラヴィア曲集第一巻全曲

♪ピアノアンサンブル doux in 狛江

日時：2014 年 4 月 20 日 (日) 14:00

会場：エブタザール

出演：黒田智美 (30 期 Pf)、神代稔子 (31 期 Pf)、丸山慶子 (30 期 Pf)、下浦暖子 (34 期 Pf)

曲目：J.S. バッハ：半音階的幻想曲とフーガ BWV903

ショパン：バラード第 1 番 ト短調 op.23

ベートーヴェン：ピアノソナタ第 31 番 変イ長調 op.110 他

♪ Bouquet <ブーケ> 2014 ～関西圏の音大出身者によるコンサート～

日時：2014 年 4 月 26 日 (土) 18:30

会場：金沢市アートホール

出演：橋場香苗 (38 期 Vn)、加藤恵理 (37 期 Pf)、谷口絵美 (53 期 Vn)、他

曲目：シューマン：ヴァイオリンソナタ第 1 番

チャイコフスキー：懐かしい土地の思い出

パスカル：ソナチネ 他

♪音が繋ぐ「和」と「洋」－wa-on コンサート－

日時：2014 年 4 月 29 日 (火) 13:30

会場：ザ・フェニックスホール

出演：増渕弥生 (50 期 Pf) 他

曲目：Bob CHILCOTT 編：砂山、村祭、朧月夜、故郷、他

♪蜂谷葉子・大岡真紀子ピアノデュオの魅力番外編 vol.2

もうひとつの顔～ラヴェルの作品とその周辺～

日時：2014 年 5 月 1 日 (木) 19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：蜂谷葉子 (29 期 Pf)、大岡真紀子 (29 期 Pf)

曲目：フォーレ：ノクターン第 6 番 op.63

ショパン：ノクターン op.62-1

ラヴェル：優雅で感傷的なワルツ 他

♪河内勇 クラリネットのひととき vol.3

日時：2014 年 5 月 2 日 (金) 19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：河内勇 (34 期 Cl)、高橋宏明 (33 期 Vc)、福井真裕子 (34 期 Pf)

曲目：ブラームス：クラリネットトリオ op.114

ドビュッシー：第 1 狂詩曲

草野次郎 日本の愛唱歌メドレー ～四季の流れを中心に～ 他

♪奥井富貴子ヴァイオリン・リサイタル

日時：2014 年 5 月 23 日 (金) 19:00

会場：ムラマツリサイタルホール

出演：奥井富貴子 (16 期 Vn)

曲目：モーツァルト：ヴァイオリンソナタ

サンサーンス：序奏とロンドカプリチオーゾ

メンデルスゾーン：春の歌 他

♪ Marimba Duo TIERRA 色とりどりの世界

日時：2014 年 5 月 25 日 (日) 14:00

会場：阿倍野区民センター

出演：可児麗子 (54 期 Per) 他

曲目：安倍圭子：樹木の息吹

Adi Morag：オクタボーンズ

J.S.Bach：トッカータとフーガ ニ短調

♪アンサンブル・ソワレコンサート vol.4

日時：2014 年 5 月 17 日 (土) 19:00

会場：京都市立京都堀川音楽高校 音楽ホール

出演：下野依子 (56 期 Fl)、山本梓 (56 期 Cl)、今井希 (56 期 Hr)、上品綾香 (56 期 Ob)、竹中勇太 (58 期 Fg)、市川未来 (56 期 Pf)

曲目：プーランク：ノヴェレツテ、木管六重奏曲

フランセ：木管五重奏曲第 1 番

カブレ：木管五重奏曲 他



♪ Marimba Duo TIERRA 色とりどりの世界

日時：2014 年 6 月 1 日 (日) 18:00

会場：日本福音ルーテル岡山教会

出演：可児麗子 (54 期 Per) 他

曲目：安倍圭子：樹木の息吹

Adi Morag：オクタボーンズ

J.S.Bach：トッカータとフーガ ニ短調

♪ ピアノアンサンブル doux vol.8

日時：2014 年 6 月 1 日 (日) 15:00

会場：スタインウェイ東京 松尾ホール / 日比谷

出演：奥田章子 (32 期 Pf)、元木いずみ (32 期 Pf)、高橋知子 (32 期 Pf)、高橋律子 (34 期 Pf)、小屋聖子 (35 期 Pf)

曲目：J.S. バッハ：マタイ受難曲より～アリア

シューベルト：ハンガリー風ディベルティメント

ラヴェル：ピアノ協奏曲より～第 2 楽章 他

♪ 京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会中部支部演奏会

「音で集う会」vol.1 ～オール・ベートーヴェン・プログラム～

日時：2014 年 6 月 12 日 (木) 18:45

会場：HITOMI ホール

出演：森本千絵 (30 期 Vn)、野村友紀 (50 期 Vc)、宗行晶子 (31 期 Pf)

曲目：ベートーヴェン：ロマンス第 1 番、2 番

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第 1 番 ニ長調

ベートーヴェン：ピアノ・トリオ第 7 番「大公」

♪ 井上隆平ヴァイオリンリサイタル ～無幸なる人々への祈り～

日時：2014 年 6 月 14 日 (土) 15:00

会場：ザ・フェニックスホール

出演：井上隆平 (40 期 Vn)、山口博明 (41 期 Pf)

曲目：ヒンデミット：ヴァイオリン・ソナタ ホ調

イザイ：子供の夢

フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調 他

♪ デュオ・ベルフルールコンサート

クラリネット鈴木豊人氏をお迎えして、八木邸米蔵にて水彩画と共に

日時：2014 年 6 月 14 日 (土) 15:00

会場：八木邸内米蔵 (京都府木津川市内垣外 105)

出演：西園真里 (31 期 Vn) 他

曲目：シューマン：おとぎ話 op.132、幻想小曲集 op.73

モーツァルト：アダージョ K.261、ケーゲルシュタットトリオ K.498

ショパン：ノクターン op.15-1、タランテラ op.43

♪ フルート・ピアノ・木管楽器による夏季音楽会

日時：2014 年 6 月 14 日 (土) 19:00、15 日 (日) 19:00

会場：中国太原長笛国際音楽交流中心

出演：田呈媛 (院 23 期 Fl)、河合珠江 (院 21 期 Pf)

曲目：平尾貴四男：ソナチネ

ドップラー：ハンガリー田園幻想曲

中国古曲：漁舟唱晚 他

♪ フルート・ピアノ・木管楽器による夏季音楽会

日時：2014 年 6 月 17 日 (火)

会場：中国成都市青羊区 里外院

出演：田呈媛 (院 23 期 Fl)、河合珠江 (院 21 期 Pf)

曲目：スメタナ：サロンにて、ボヘミア農民の祭

中国古曲：漁舟唱晚 他

♪ 新進演奏家育成プロジェクトリサイタルシリーズ O S A K A 13

湯川美佳ピアノ・リサイタル

日時：2014 年 6 月 20 日 (金) 19:00

会場：大阪 いずみホール

出演：湯川美佳 (51 期 Pf)

曲目：W.A. モーツァルト：ピアノソナタ第 17 番変ロ長調 K.v.570

F. リスト：巡礼の年第一年「スイス」S.160 より

第 1 曲ウィリアム・テルの聖堂、第 6 曲オーベルマンの谷 他

♪ ウィリアム・ブランクル & 石井玲子チェロとピアノのデュオリサイタル

スペイン・ラテン音楽 ～情熱と哀愁の夕べ～

日時：2014 年 6 月 22 日 (日) 14:30、28 日 (土) 14:00

会場：京都府立府民ホール「アルティ」、新潟市江南区文化会館

出演：ウィリアム・ブランクル (Vc)、石井玲子 (院 7 期 Pf)

曲目：グラナドス：「スペイン舞曲集」よりアンダルサー・オリエンタル

ファリャ：「スペイン民謡組曲」火祭りの踊り

ヴィラ・ロボス：黒鳥の歌 他

♪ 高木知寿子ワルシャワピアノトリオ

日時：2014 年 7 月 7 日 (月) 19:00

会場：京都府立府民ホール「アルティ」

出演：高木知寿子 (27 期 Pf) 他

曲目：フランク：ヴァイオリンとピアノの為のソナタ イ長調

ブラームス：チェロソナタ 第 1 番 ホ短調 op.38

パヌフニク：ピアノトリオ ヘ短調 op.1 他

♪ 今西彩葉・河原結花 デュオリサイタル

日時：2014 年 7 月 10 日 (木) 19:00

会場：学園前ホール

出演：今西彩葉 (58 期 Vn)、佐竹美奈子 (58 期 Pf) 他

曲目：モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 ト長調

シベリウス：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 ハ長調

ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第 5 番「春」 他

♪ 四人展 ～真夏の夜の夢～

日時：2014 年 7 月 12 日 (土) 17:00

会場：京都青山音楽記念館パロックザール

出演：室井道子 (21 期 Vn)、森下洋子 (21 期 Pf)、附田恵里子 (21 期 Vo)、齋川永子 (21 期 Pf)

曲目：ドヴォルザーク：ソナチネ Op.100

プッチーニ：オペラ「つばめ」より ドレッタの美しい夢

リスト：バラード第 2 番 他



♪親子で歌いつごう日本の歌 ～完結の巻～

日時:2014 年 7 月 21 日 (月・祝) 14:00

会場:ガレリアかめおか 響ホール

出演:片山映子 (27 期 Vo)、美馬美紀 (30 期 Vo)、橋本尚 (35 期 Pf)

曲目:文化庁 PTA 全国協議会選定「親子で歌いつごう日本の歌」
通リゃんせ、叱られて、ぞうさん 他

♪サマー・ラグジュアリー・コンサート「真夏の夜の夢」

日時:2014 年 8 月 1 日 (水) 19:00

会場:ザ・フェニックスホール

出演:河村さと子 (16 期 Vo) 他

曲目:シューベルト:アヴェマリア・鱒・野ばら 他
プッチーニ:「トゥーランドット」「タンホイザー」より

♪帰ってきた星たち3 —田淵洋子と門下生によるコンサート

日時:2014 年 8 月 16 日 (土)

会場:京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

出演:宮川みまり (42 期 Vn)、膳ルミ子 (48 期 Vn)、梁洋子 (50 期 Vn)、朴理恵 (54 期 Vn)、志水葵 (58 期 Vn)、吉田円香 (56 期 Vc)、佐藤響 (55 期 Vc)、西口勝 (36 期 Cb) 他

曲目:ヴィヴァルディ:2 台のためのヴァイオリン協奏曲
レスピーギ:リュートの為の古代舞曲とアリア 組曲第 3 番 他

♪野村友紀 チェロリサイタル

日時:2014 年 8 月 27 日 (水) 19:00

会場:名古屋電気文化会館 ザ・コンサートホール

出演:野村友紀 (50 期 Vc) 他

曲目:ドビュッシー:チェロソナタ ニ短調
ベートーヴェン:チェロソナタ 第 4 番 ハ短調
カサド:無伴奏チェロのための組曲 他

♪京都室内オーケストラ

日時:2014 年 8 月 31 日 (日) 14:00

会場:京都市西文化会館ウエスティ

出演:膳ルミ子 (48 期 Vn)、阪中美幸 (48 期 Vn)、溝渕そよか (49 期 Vn)、濱名まり絵 (49 期 Vn)、山下陽子 (49 期 Vn)、杉中景子 (48 期 Va)、永久真里恵 (48 期 Va)、池村明子 (48 期 Va)、田村美佳 (49 期 Vc)、崎元蘭奈 (49 期 Vc)、吉平大作 (50 期 Cb)

曲目:レスピーギ:リュートの為の古代舞曲とアリア 組曲第 3 番
チャイコフスキー:弦楽セレナーデ Op.48 他

♪細川泉ヴィオラリサイタル

日時:2014 年 9 月 6 日 (土) 17:00

会場:青山音楽記念館バロックザール

出演:細川泉 (57 期 Va)、船橋美穂子 (25 期 Pf)、他

曲目:モーツァルト:ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 変ロ長調 K.V.424
ブリテン:ラクリメーダウランドの歌曲による投影 作品 48
シベリウス:ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 他

♪平野佳恵・斉藤晴海リーダーアーベント

日時:2014 年 9 月 6 日 (土) 14:30

会場:ナムホール

出演:平野佳恵 (院 19 期 Vo) 他

曲目:シューマン:女の愛と生涯 Op.42
プーランク:歌曲集「歌の調べ」
中田喜直:日本のおもちゃうた 他

♪Unmarked Music アンマークトシンガーズ第 8 回演奏会

日時:2014 年 9 月 7 日 (日) 15:00

会場:京都青山音楽記念館バロックザール

出演:奥田聖子 (48 期 Vo)、丸山晃子 (51 期 Vo)、乃村八千代 (54 期 Vo)、藤原さおり (46 期 Vo)、坂本晃一 (55 期 Vo)、清水俊徳 (52 期 Vo)、五島真澄 (51 期 Vo)、藤野豊 (52 期 Vo)、樋口卓哉 (55 期 Vo)、仲香織 (46 期 Pf) 他

曲目:J.S. バッハ:モテット「歌え、主の御前に新しき歌を」BWV225
G.P. da パレストリーナ:「私は命あるパンである」
C. モンテヴェルディ:「波はささやき」 他

♪マンハイマー・ピアノカルテット ～マンハイマー室内楽シリーズ Vol.2～

日時:2014 年 9 月 7 日 (日) 14:00、23 日 (火) 14:00

会場:東京建物八重洲ホール、逸翁美術館マグノリアホール

出演:溝渕そよか (49 期 Vn)、嶋田理恵 (46 期 Pf) 他

曲目:モーツァルト:ピアノ四重奏曲第 1 番 ト短調
マーラー:ピアノ四重奏曲断章 イ短調
シューマン:ピアノ四重奏曲 変ホ長調 他♪京都市立芸術大学音楽学部同窓会 真声会 京都支部による
第 31 回プロムナードコンサート

日時:2014 年 9 月 14 日 (日) 14:30

会場:京都府立府民ホール「アルティ」

出演:藤美千代 (43 期 Vo)、竿下和美 (42 期 Pf)、林千賀子 (5 期打)、佐々木百合子 (18 期打)、柳楽由美子 (38 期 Cl)、宮崎友香子 (38 期 Pf)、福井真裕子 (34 期 Pf)、武田佳美 (34 期 Pf) 他

曲目:カントループ:「オーベルニュの歌」より

ドビュッシー:ベルガマスク組曲
ラフマニノフ:2 台のピアノのための組曲第 1 番 作品 5「幻想的絵画」 他

♪土居知子ピアノリサイタル “Mozart! Mozart!! Mozart!!!”

日時:2014 年 9 月 15 日 (月・祝) 18:30

会場:京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

出演:土居友子 (35 期 Pf)、井上隆平 (40 期 Vn)、五味敬子 (49 期 Vc)

曲目:モーツァルト:幻想曲 ハ短調 K.396
モーツァルト:ピアノソナタ ハ短調 K.457
モーツァルト:ピアノ三重奏曲 ハ長調 K.548 他

編集後記

6 月 8 日に真声会の役員会が開催されました。年度委員の方を含むたくさんの役員の方々、そして現役学生の会員が出席し、とても内容の濃い会となりました。下は 18 歳から上は 81 歳まで・・・なかなかこれだけの広い年齢層の方々が集まって意見を交わす機会もありませ

んの、とても刺激的でした。そして、先輩方のお元なこと。ヤングチームはまだまだ気合いがたりん！と心から思ったのでありました～(S)

真声会

京都市立芸術大学音楽学部同窓会
Kyoto City University of Arts Alumni Association

発行所

真声会 京都市立芸術大学音楽学部内

〒 610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13 番地の 6

TEL : 080-6185-4494 FAX : 075-334-2345

e-mail : shinsei@kcua.ac.jp

HP : <http://www.shinseikai-kcua.net>

Facebook : <https://www.facebook.com/KCUA.AluminiAssociation.Shinseikai>